

第 1 学 年

- 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」
ー 算数的活動を通して ー

2 育てたい力

◆表現力

○自分の思いや考えを話すことができる。

◆コミュニケーション力

○友達の話を聞いて、自分の思いや考えを伝えることができる。

3 研究の視点と手だて

[視点 1] 算数的活動の工夫

○問題解決による発表，話し合い

自分の考えた方法について，必要に応じて教師が補足説明をしながら発表させる。
発表を聞いた児童には，発表の内容や発表のしかたで良い点を中心に見つけださせ，それを発表させる。

○学習の振り返り（感想）

できるようになった喜びやがんばったことを中心に取り上げ，次時の学習の意欲付けにつなげていく。

[視点 2] 学習形態の工夫

○ペア学習やグループ学習の設定

自分の考え（自分で考えた問題）を隣の席の人に伝えたり，近くの人に伝えたりする場面を設定し，児童同士の交流を図る。

[視点 3] 学習環境の整備

○話すポイントの確立

発表の仕方，挙手，返事

○聞くポイントの確立

作業をやめて，最後まで聞く。

4 その他

○指導にあたって

1 学期は，学校生活に慣れさせることと児童の実態把握のために T T 指導で授業を実践する。2 学期からは，よりきめ細やかな指導と多くの発表の機会を与えることを主におき，等質 2 分割による少人数指導で授業を実践する。

第 1 学年 成果と課題

1 研究の成果

〔視点 1〕算数的活動の工夫

<問題解決による発表、話し合い>

- 繰り上がりのあるたし算（加数分解，被加数分解）の導入場面と繰り下がりのあるひき算（減加法，減々法）の導入場面で，問題解決による学習を展開させた。最初のころは，発表の方法や話し合いの方法についての指導の場面が多かったが，後半は，少しずつ教師の支援の回数も減り，児童相互による話し合いができるようになってきた。
- 必要に応じて，問題解決の授業を設定したことは，数学的な考え方を伸ばすだけではなく，発表による表現力やコミュニケーション力をつけていくという点でも効果があった。

<学習の振り返り（感想）>

- いつでも授業の最後には，学習感想による振り返りの場面を設定した。学習感想は，できるようになった喜びやがんばったことを中心に発表させた。少しずつではあるが一人一人自分の思いを大きな声で発表できるようになってきた。また，発表を通してお互いの発表の方法や考え方の良い点を認め合うようになり，児童同士の交流も深まった。

〔視点 2〕学習形態の工夫

<ペア学習やグループ学習の設定>

- 自分の考え（自分で考えた問題）を隣の人に伝えたり，近くの人に伝えたりする場面，集団やペアによるゲームを取り入れた場면을授業の展開の中に積極的に取り入れた。その結果，楽しみながら児童たちは，お互いに交流を深めることができた。
- 単元の終末には，問題づくりの場面を設定した。3人一組みによるグループ学習やペア学習を取り入れ，自分で作った問題を友達に解いてもらい，さらに自分が先生となって丸つけ（励ましのコメント）をする展開で活動させた。その結果，お互いを賞賛し合ったり，認め合ったりしながら，交流を深めることができた。

〔視点 3〕学習環境の整備

<話すポイント聞くポイントの確立>

- 挙手や返事のしかた，発言や意思表示，話しの聞き方（作業をやめて最後まで話を聞く）や姿勢などの学習訓練については，4 月当初から，児童の実態に応じて繰り返し指導してきた。その結果，多くの児童が，きちんとした学級のルールに基づいて積極的に自分の意見を発表できるようになった。また，話の聞き方については，一部の児童に声かけが必要などころはあるが，全体としてはだいぶ定着してきた。
- 2 学期から，等質 2 分割による少人数指導を実践してきた。少人数にしたことで，児童は発表の機会が増え，一人一人自分の考えに自信を持たせることができた。また，指導者の目が行き届くことで，どの児童がどこでつまづいているのかに気づくことができ，支援をはじめ意図的指名も容易にできた。

2 今後の課題

- ▲ 学習訓練の内容については，各担任（学級，学年）ごとにそれぞれ違っていた。学校全体での系統立てた一貫した指導体制の必要がある。
- ▲ 1 年生として，最低限身に付けさせたい表現力やコミュニケーション力を学年全体で話し合い，具体化してきた。今後，児童の実態や他学年との整合性をふまえて構築する必要がある。